

アトピー性皮膚炎、 近年の進歩について 知っとうか

皮膚科部長 山本文平



アトピー性皮膚炎って
いったい何者?

アトピー性皮膚炎というと「アレルギー」を連想しませんか?

しかし近年、アレルギーではないアトピー性皮膚炎のメカニズムが分かりました。アレルギーの場合、反応する物質が決まっています。例えば「杉」に対する花粉症です。アレルギーでない場合、「衣服のこすれ」のような刺激に対しても湿疹を作ってしまう。特定の「アレルギー」がなくともアトピー性皮膚炎は発症してしまうのです。

また、湿疹のある皮膚は新たなアレルギーを作りやすいことが分かっています。湿疹が続くことで、さらにアレルギーが作られてしまうと、「アレルギーでないアトピー」の上に「アレルギーのアトピー」が追加されてしまいます。ここでアトピー性皮膚炎は、一気に訳が分からない、難治性の病気になってしまいます。大人になって突然悪化したような

アトピー性皮膚炎は、アレルギーが追加されたアトピーである可能性があります。

アトピー性皮膚炎の最新の治療

アレルギーではない湿疹があることから、アレルギーの原因を調べるだけでは不十分となります。しっかりと外用剤を使い、「痒くないので掻かない」といった良い循環を維持することが大切な治療です。

良い循環を維持するための薬剤として、以前まではステロイドと保湿剤くらいしか薬剤の選択肢がありませんでした。しかし近年は研究が進み、副作用の少ない外用薬が使用できるようになりました。また、ステロイド外用剤を半年以上しっかりと使っても難治である場合、高額にはなりますが、新たな注射薬や内服薬が使えます。

新しい薬剤の登場で、アトピー性皮膚炎は以前より圧倒的にコントロールしやすい病気になっています。

問合せ 公立甲賀病院総務企画課 TEL62-0234 FAX63-0588

未来につながる

エコっとうか

エコワイス

1年間に日本で宅配便の再配達により発生するCO₂排出量は、車で地球を何周回るCO₂排出量に相当するでしょうか?

※燃費は20km/Lで計算しています

A 約900周

B 約9,000周

C 約90,000周



000'065

エコ

甲賀市環境
未来都市宣言

甲賀市は2050年
カーボンニュートラル
を目指しています。

解説

インターネットを利用した通信販売の普及で服や電気製品など様々なものが宅配便で届く便利な時代になりました。年々増加する宅配便の件数に比例して再配達も増えていきます。再配達になった理由として約2割の人が「配達されることを知らなかった」と回答した調査結果もあります。自宅に帰ると「いつの間にか不在票が入っていた」という経験がある方も多いのではないのでしょうか。

再配達はCO₂排出量の増加につながるだけではなく、ドライバーの負担にもなります。環境省によると全宅配ドライバーの約1割が1日中再配達のために働いている計算になるそうです。できるだけ宅配便を一度で受け取れるように工夫し、地球にも人にも優しい生活をめざしましょう。

宅配便を1度で受け取る工夫

- 1 宅配事業者のお届け通知サービスの利用
事前に配達予定のお知らせがあり、受け取り時間を変更できるサービスがあります。
- 2 「置き配」の実施
玄関先や宅配ボックスなど指定した場所に荷物を置いてもらえます。急な外出があっても荷物の再配達を頼まずに済みます。
- 3 確実に受けとれる場所の活用
近所のコンビニなどで受け取るサービスが実施されていることもあります。帰宅途中など都合の良い時間に立ち寄り受け取ることが出来ます。
- 4 送るときは相手に届く日時を事前に伝える
荷物を送るときは、事前に相手の希望の日時を確認したり、できるだけ届く日時を相手に伝えたりしましょう。

元気な まちがど

新たな挑戦を 瓦絵・石絵アート

5月17日(水)～31日(水)に、甲南図書館で瓦絵・石絵のアート展が行われました。

作者の村山和夫さんは、これまで七福神などの仏画を板に描いておられましたが、家の葺き替えの際に出た瓦を使って”誰もしていないことに挑戦しよう”と、瓦絵を始められました。

村山さんは、「今後も描きたいものを見つけたら、挑戦していきたい」と語っていました。

展示の前で瓦絵を持つ村山さん



龍や仏画など色鮮やかに並ぶ瓦絵



瓦絵・石絵

描かれたためきのイラスト



田植えを楽しむ参加者



泥んこになる子ども



伝統を若い世代へ 江州音頭フェスタ in しが 2023

江州音頭フェスタ in しが 2023が6月11日(日)に、碧水ホールで行われました。

コロナ禍による休止、縮小を経て4年ぶりの通常開催となり、多くの方が訪れました。歌い手の奏でる音に合わせて、さまざまな衣装の参加者が踊り、参加者同士での交流も見られました。

江州音頭が若い世代へ引き継がれ、踊り続けられていくとよいですね。



踊りを教え合いながら交流する参加者

さまざまな衣装で踊る参加者



どろんこ!うしかい田んぼアート

「うしかい田んぼアート田植え体験会」が6月4日(日)に水口町牛飼で開催されました。

今年は、信楽高校の生徒発案のためきのイラストが描かれました。参加者は300人を超え、子どもから大人まで泥んこになりながら田植え体験を楽しんでいました。

今後は信楽高原鐵道の車窓から絵柄を見ることが出来ます。

また、10月には稲刈り体験も開催されます。ぜひお越しください。